

認定看護師が考える「ケアに生かせる（必要・有効）」画像診断の内容抽出

篠崎恵美子¹⁾ 藤井徹也¹⁾ 渡邊順子¹⁾ 坂田五月¹⁾ 松下君代²⁾

1) 聖隷クリストファー大学、2) 聖隷三方原病院

【目的】

本研究では、認定看護師が「ケアに生かせる（必要・有効）」と考える画像の内容について明らかにすることである。

【方法】

期間：2014年1月

対象：同意が得られた特定機能病院 25 施設および地域医療支援病院 142 施設に勤務する「救急」「皮膚・排泄ケア」「感染管理」「集中ケア」4領域の認定看護師 719 人。

データ収集方法：対象施設の看護部長に、研究協力および認定看護師の紹介を依頼した。ご紹介いただいた認定看護師に同意を得て、独自に作成した無記名式の質問紙調査を実施。調査内容は、X線検査 4 項目、CT 画像 5 項目、エコー 5 項目、血管造影 2 項目、シンチグラフィ 7 項目、PET 2 項目の計 30 項目である。各項目について看護実践時の使用頻度と、必要性の有無を尋ねた。

データ分析方法：認定看護師の看護実践時にどのような画像が使用されているのか頻度を記述統計にて分析した。

倫理的配慮：聖隷クリストファー大学の倫理委員会の承認を得て実施した。研究主旨、参加の自由などを文書で説明し同意を得た。調査は無記名で実施した。

【結果】

- 332 人から回答があり、回収率 46.1%（有効回答率 80%）。対象者の認定領域は、救急 28 人、皮膚・排泄ケア 88 人、感染管理 88 人、集中ケア 63 人であった。
- 使用頻度について「日常的に使用」が 50%を超えた項目は 1 つもなかった。
「日常的に使用」が多かったのは、X線：胸部 48%、CT 画像：胸部 37%、頭部 31%。
「全く使用しない」の回答が 90%以上のものは、エコー：関節・腱、シンチグラフィ：脳、甲状腺・副甲状腺、肝・胆道、腎、副腎、PET：脳、癌であった。
- 必要性について「必要」が 50%を超えたものは、X線：胸部 86%、腹部 86%、CT 画像：腹部 79%、胸部 76%、X線：四肢 59%、CT 画像：頭部 59%、エコー：腹部 56%、MR 画像：頭部 52%、エコー：心・血管 52%であった。「不要」が 90%以上のものは、シンチグラフィ：脳、甲状腺・副甲状腺、肝・胆道、腎、副腎、PET：脳であった。

【考察】

領域によって使用される画像には差があることが考えられるが、現時点において認定看護師が画像を多く活用しているとは考えにくい。しかし、31～48%の認定看護師はX線：胸部、CT 画像：胸部および頭部を活用している。また、日常的には使用していないが、50%以上の認定看護師が必要性を感じている項目も 9 項目あったため、学習ニーズがあるのではないかと考える。

シンチグラフィと PET については、有効な画像と考えるが、現時点で認定看護師の看護実践活動では、使用頻度が低く、また活用する必要性はないと考えている。

今後はこの結果をさらに分析し、求められている画像の学習ツールを開発していく。

【学会発表の予定】

2014年11月日本看護技術学会、2014年11月日本看護科学学会にて発表予定。